



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

資料3

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会  
原子力科学技術委員会  
原子力研究開発・基盤・人材作業部会(第5回)  
R2. 12 16

# 「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究 炉の概念設計及び運営の在り方検討の 公募結果について

研究開発局 原子力課

# 「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究炉に係る公募

## 【公募概要】

平成28年12月の原子力関係閣僚会議において、「もんじゅ」を廃止措置する旨の政府方針を決定した際、将来的に「もんじゅ」サイトを活用し、新たな試験研究炉を設置することとされた。文部科学省は、委託調査により炉型候補を複数選定し、地元の意見聴取を経て、文部科学省の原子力科学技術委員会原子力研究開発・基盤・人材作業部会(令和2年9月2日)において中性子ビーム利用を主目的とした中出力炉が最も適切であるとの了承を得た。また、今後の検討の進め方として、「試験研究炉の着実な設計・設置・運転」、「幅広い関係機関が利用出来るような試験研究炉の運営」、「地元関係機関との連携構築」の3つの観点において知見・経験・能力を有する少数の研究機関・大学が、適切な役割分担のもと連携した体制を構築し、これを中核的機関として位置付け、概念設計及び運営の在り方検討を実施することが適切とされた。今後の取組として、令和2年度中に概念設計を着手し、令和4年度中に詳細設計の開始を予定している。

本事業は、詳細設計の段階に移行するまで、複数年度(3カ年度)にわたり、上述の3つの観点を有する少数の研究機関・大学が適切な役割分担のもと連携し、これらの機関が中核的機関となって、概念設計及び運営の在り方について、一体的に検討を進めていくものである。

【事業期間】 令和2～4年度

【公募期間】 令和2年9月18日～同年10月19日

【応募件数】 1 件

## 【審査】

複数の外部有識者で構成される審査委員会において、事業内容並びに実施体制の審査のみならず、当該応募者が事業を実現可能であるかについても審査を行ったうえで、採択機関を決定

# 「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究炉に係る公募結果

## 【採択機関】

日本原子力研究開発機構(代表機関)、京都大学、福井大学

## 【提案内容】

本試験研究炉の利用ニーズを有する機関等からなるコンソーシアムを構築し、幅広い意見を反映しながら、主に以下の役割分担で、概念設計及び運営の在り方検討を実施する。

- ・原子力機構(試験研究炉の設計・設置・運転)
- ・京都大学(幅広い利用運営)
- ・福井大学(地元関係機関との連携構築)

## 【審査委員会所見】

「もんじゅ」サイトに新たに設置する試験研究炉の概念設計及び運営の在り方検討に関して、関係機関が適切な連携体制のもと、中核的機関として効果的に事業を実施する計画が提案されている。本事業の趣旨に合致しており、提案機関の経験や知見が活かされた実現可能性が高い提案である。以下の点に留意して、安全確保を大前提として着実に事業を進めていただきたい。

- ・ 組織マネジメントに関して、中核的機関三者間の連携を確実にを行い、効果的、効率的な業務実施に努めること
- ・ 建設コストのみならず維持管理コストなどを含めた総合的なコスト意識をもって、概念設計及び運営の在り方検討を行うこと
- ・ 学生や若手研究者のみならず、産業界の若手も含めた幅広い人材育成や技術力維持の機会を提供すること
- ・ 中性子ビーム利用や照射機能を有する既存の試験研究炉及び将来計画との相補性、役割分担等を十分に検討した上で、概念設計を進めること

## 【主なスケジュール】

採択決定(11月10日)、事業開始(11月27日～)

## (参考) 審査委員名簿

木藤 啓子	一般社団法人日本原子力産業協会 地域交流部 課長
白山 真一	学校法人学文館 上武大学 ビジネス情報学部 教授
鈴木 國弘	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 次世代放射光施設整備開発センター 総括参事
寺井 隆幸	東京大学名誉教授
原嶋 俊彦	一般社団法人日本電機工業会 原子力部 課長
安田 孝志	電気事業連合会 原子力部 副部長
吉沢 英樹 *	一般財団法人放射線利用振興協会 東海事業所 中性子利用技術部 参与 * 審査委員の申し出により審査辞退

(以上、五十音順、敬称略)